

社寺名 伊佐爾波神社 (松山市桜谷町173)

奉納者 やまさききえもん まきたつ  
山崎喜右衛門 (昌龍)

奉納年 嘉永3年 (1850年)

解説 《愛媛県指定有形民俗文化財》

山崎喜右衛門の名は昌龍、実家は安西氏で養子として山崎氏を継ぐ。山崎家は、松山藩の御細工組で7石2人扶持。若くして妻の弟富太郎を養子として山崎家を継がせた。

山崎喜右衛門はもともと漢学の素養があったので、和算を小嶋又兵衛に学び、その後徳島、大阪、京都にその道の達人を訪ねながら江戸に入り、藤田貞升の門人となる。直接関流を学び、研鑽を積み松山に帰った。

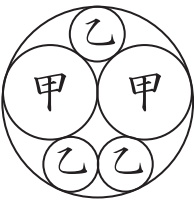
当時、知識人の中で和算を楽しむ風潮があり彼の門下生を希望する者が大勢あり、謝礼はチケット制とし、前納した者に、1回の授業の度に1枚を納めさせていた。

安政3年 (1856) 小松恵龍 (遊歴算者) から伊崎庄右衛門等と共に、天文測量を学んだ。

その後、藩校の明教館に数学教授所を設けるよう藩に働きかけ、実現した明治3年 (1870) に初代主任教授となった。明治12年没。

(『愛媛県誌稿上巻』大正6年(1917))


初學小島馭季後遊東都入司天監藤田貞  
升門藤田氏者關流六博也



得乙圓三箇只云甲圓徑若干問  
答曰圓徑術如何

術曰置二箇平方開之加二箇名極八之内  
減五箇餘平方開之内減極餘自乘之以除  
甲圓徑得乙圓徑合問

嘉永三戌年 山崎喜右衛門  
正月 昌龍印



面若干問得人圓徑術如何  
答曰如左術

術曰置四十八箇平方開之内減五箇餘平  
方開之加二箇以除三角面得人圓徑合問

今有如圖三角内容天圓一箇  
地圓一箇人圓二箇只云三角  
面若干問得人圓徑術如何

問題文

(右) 図のように、正三角形内に天円1個、地円1個、人円2個がある。正三角形の1辺の長さが与えられたとき、人円の直径の長さを求めよ。

(左) 図のように、円内に甲円2個、乙円3個がある。甲円の直径の長さが与えられたとき、乙円の直径の長さを求めよ。